



平成24年10月10日

	観光振興課
担当者	浦津、吉田
内線	2645
ダイヤルイン	895-2645

「長崎県観光動向調査」について

本県の平成24年4～6月期における観光動向について、
別添のとおりまとめましたので、お知らせいたします。



長崎県観光動向調査 (平成24年4～6月分)

主要指標

平成24年4～6月

	対象施設	延宿泊客数 利用者数	H24-H23比較	
			増減率	増減数
主要宿泊施設	164	1,005千人	+5.6%	+54千人
主要観光施設	25	1,930千人	+6.3%	+114千人

概況

主要宿泊施設の宿泊客数は、東日本大震災の影響による大幅な減少から国内外の宿泊客ともに回復の動きがみられ、特に、対馬 釜山間航路を利用した韓国人観光客など、外国人観光客の回復がみられたことなどから、4～6月期全体では対前年同期+5.6%と増加した。なお、震災発生前の前々年と比較しても+4.8%となった。

主要観光施設の利用者数は、天候に恵まれた大型連休期間中において、屋外施設を中心に観光客数が増加したことに加え、ハウステンボスの集客が増加したこと、長崎県美術館において企画展が奏功したことなどから、4～6月期全体では対前年同期+6.3%と大幅に増加した。

ブロック別の主な増減要因

【長崎・西彼ブロック】

修学旅行は、前年の振り替えからの反動により減少したものの、全体としては、東日本大震災の影響による減少から回復の動きがみられたことに加え、帆船まつりの集客が大幅に増加したことから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+2.7%となり、前々年と比較しても+3.8%と震災発生以前の水準を上回った。

【佐世保・西海・東彼・北松ブロック】

ハウステンボスを中心に国内外、特に台湾からの観光客が増加するなど、東日本大震災の影響による減少から回復の動きがみられたことなどから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+3.3%となった。

【平戸・松浦ブロック】

東日本大震災の影響による減少から回復の動きがみられたことに加え、一部宿泊施設においてビジネス客が増加したこと、リニューアル効果による宿泊客の増加がみられたことなどから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+14.7%となった。

【諫早・大村ブロック】

ビジネス目的による宿泊客数が増加したことなどから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+3.6%となった。

【島原半島ブロック】

一部の宿泊施設の閉館による減少がみられたものの、昨年東日本大震災の影響による減少から回復の動きがみられたことに加え、5月に開催された第5回ジオパーク国際ユネスコ会議により宿泊客数が増加したことから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+6.9%となった。

【五島ブロック】

東日本大震災の影響による減少から回復の動きがみられたことに加え、新上五島町において宿泊施設がオープンしたこと、ビジネス関係の宿泊客が増加したことなどから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+11.0%となった。

【壱岐ブロック】

東日本大震災の影響による減少から回復の動きがみられたものの、一部宿泊施設の改装に伴う休業により、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比3.4%となった。

【対馬ブロック】

前年は、東日本大震災発生により韓国人観光客を中心に大きく減少したが、今年は、回復の動きに加え、対馬 釜山間航路の新規参入により韓国人観光客が大幅に増加したことから、4～6月期全体の宿泊客数は対前年同期比+125.5%と前年を大きく上回り、前々年と比較しても+30.3%と大幅に増加した。

(参考) 外国人観光客の動向 (ご協力いただいた施設のみのサンプル調査)

中国、台湾、香港では前年同期、震災前の前々年同期を上回り、韓国では、前年同期を上回ったものの、円高の影響もあり前々年の水準は回復していない。4～6月期全体の外国人宿泊客数は対前年同期比+170.2%となり、前々年と比較しても増加となった。

(参考資料)



